

日常生活について

バクロフェン髄注療法を受けられる方へ

ポンプをお腹に入れた後も、これまでとほとんど同じような生活を送ることができます。

ポンプを お腹に入れた後の生活

食事、入浴は特に制限なく、これまで通り行うことができます。

体を大きくねじる動作を控えれば、適度なりハビリ・運動を継続することができ、日常生活動作がより楽になることが期待できます。

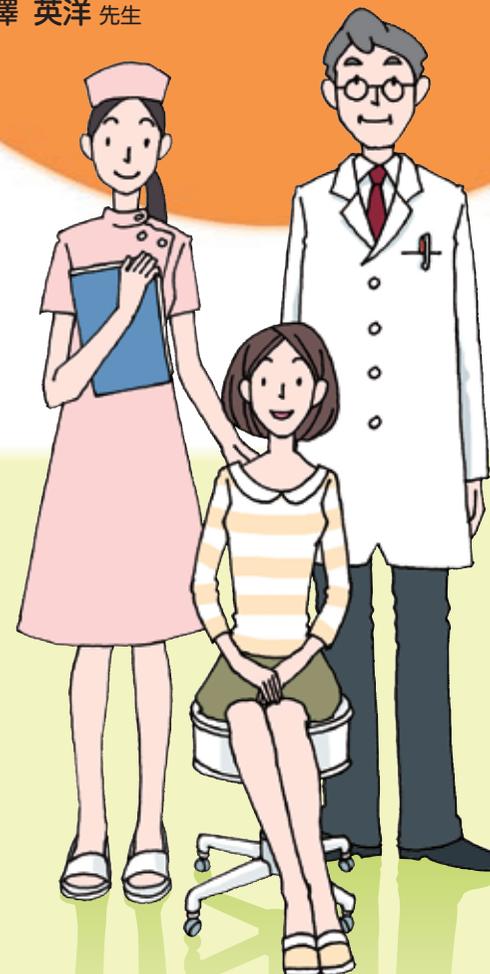
日常使う家電製品の影響を受けることはあまり考えられませんが、万が一、ポンプへの影響が疑われる場合は、その製品から遠ざかるか、その製品のスイッチを切れば、正常に戻ると考えられます。

※普段と異なる症状があらわれたら、
すぐに担当医師に連絡して
適切な処置を受けてください。



治療をはじめる前に 知っていただきたいこと

監修：東京医科歯科大学 神経内科 主任教授
(現 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 理事長・総長)
水澤 英洋 先生



第一三共株式会社 Medtronic

けいしゆく 『痙縮』とは？

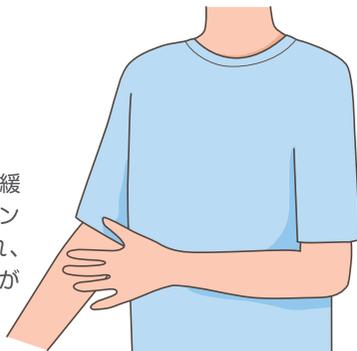
痙縮(つっぱり)とは、脳や脊髄の異常により、
『筋肉を縮ませる命令』が強くなり、
自分の意思とは無関係に筋肉が縮んでしまう症状のことです。

健康な方

脳や脊髄からの『筋肉を縮める命令』と『筋肉を緩ませる(緩める)命令』がバランスよく行われ、体を動かすことができます。

例：手の場合

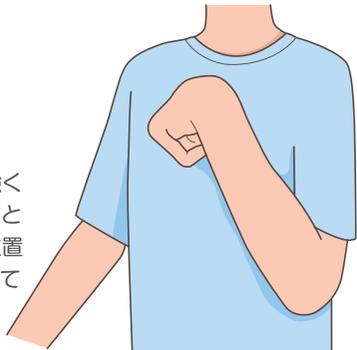
『縮める』と『緩める』がバランスよく行われ、スムーズに腕が動く。



痙縮の方

2つの命令のバランスが崩れて『筋肉を縮める命令』が強くなり、自分の意思とは無関係に筋肉が縮んで、固くなってしまいます。

『縮める』が強く行われ、意思とは無関係な位置(姿勢)になってしまう。



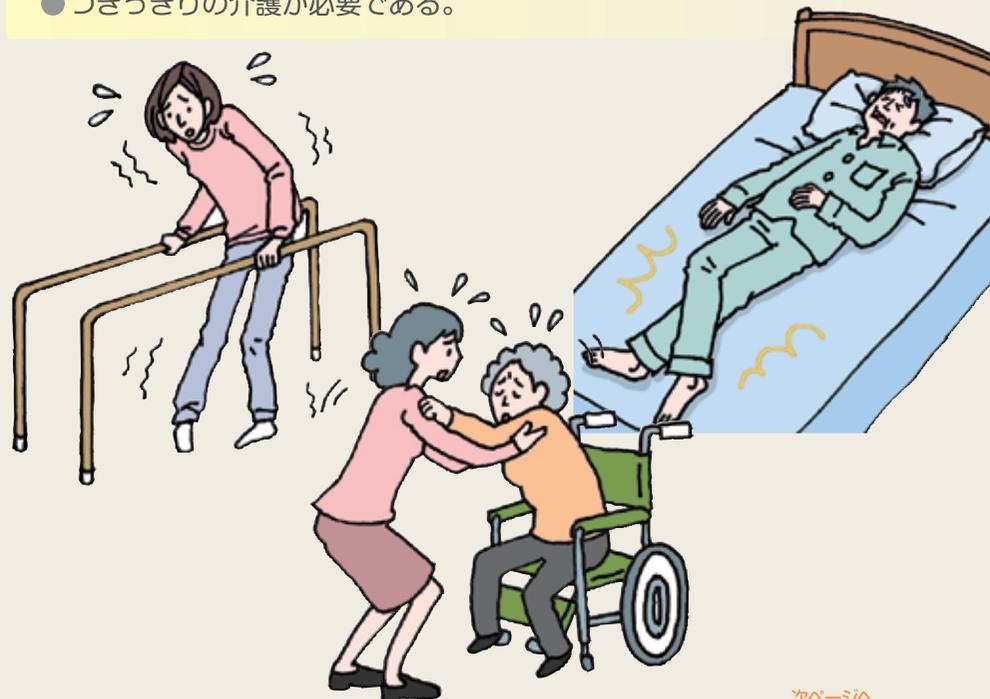
痙縮が起こる代表的な疾病

脊髄損傷／脳卒中／脳性麻痺／痙性対麻痺／脳損傷／低酸素脳症／急性脳症／脊髄小脳変性症／多発性硬化症

日常生活で困っていませんか

痙縮による症状で、
日常生活の中で困っていることはありませんか？

- 歩行・着替えなどが行えない・行にくい。
- 食事が思うようにできない。
- よく眠れない。
- 体にしめつけ感や痛みがある。
痙縮以外の原因による痛みには、作用しません。
- 思うようにリハビリテーションが行えない。
- つきっきりの介護が必要である。



痙縮の治療法

痙縮をやわらげる治療法には、下記のようなものがあります。

飲み薬

固くなっている筋肉をやわらかくするお薬を飲む治療法です。
症状が強い場合には、十分な効果が得られないことがあります。

神経ブロック療法

症状がでている部位を動かす神経にお薬を注射して、
その神経の働きを抑えて、周辺の筋肉をやわらかくする
治療法です。

外科的治療法 (手術)

痙縮の症状と関係する神経の一部を切ったり、
症状がでている筋肉や腱を切ったり伸ばしたりすることで、
ほどよい強さに調整する治療法です。

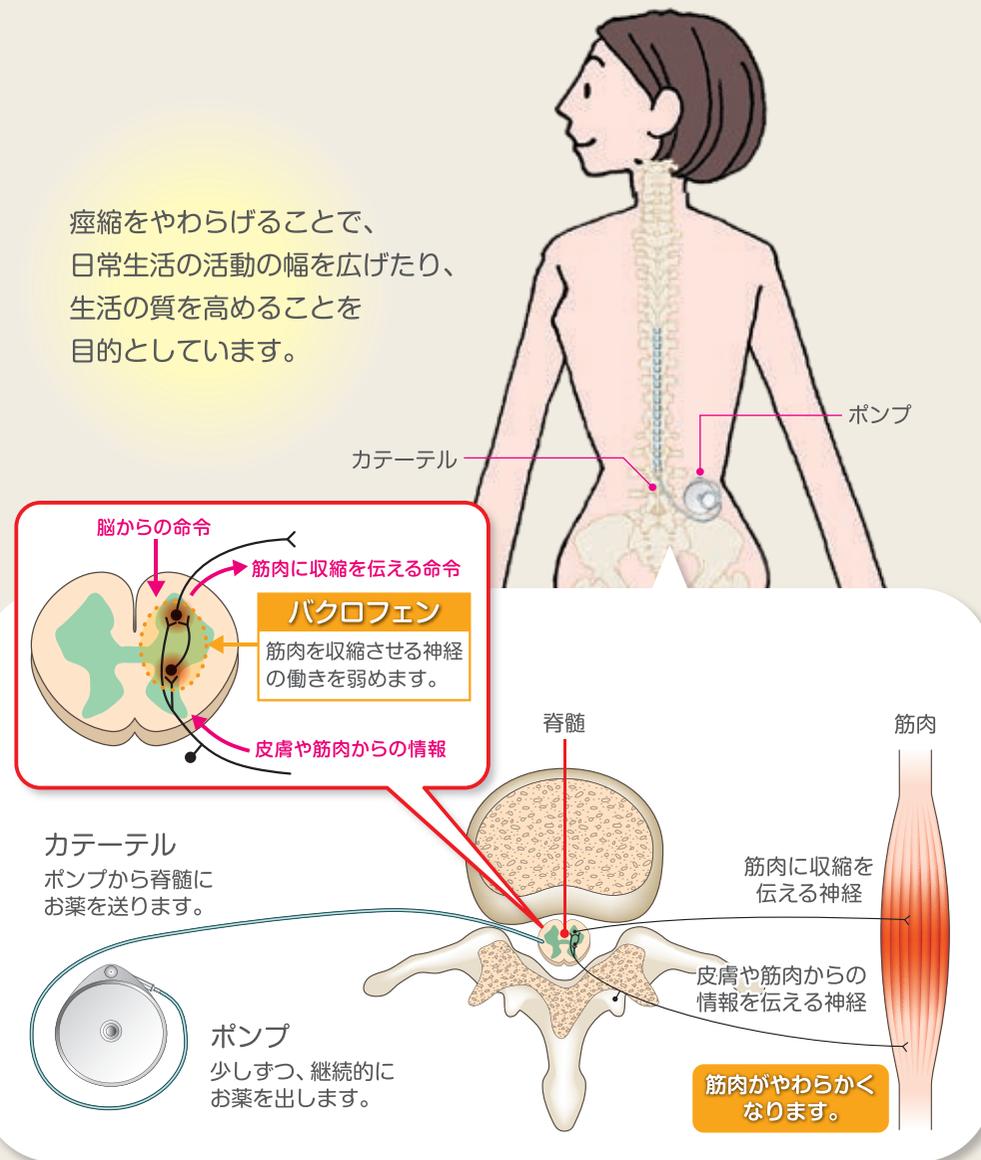
バクロフェン 髄注療法

バクロフェンというお薬を、お薬が働く脊髄周辺に直接入れて、
筋肉をやわらかくする治療法です。
症状に応じてお薬の量を調節することで、
強い痙縮でもコントロールすることが出来ます。

バクロフェン髄注療法とは

バクロフェン髄注療法は、『ポンプ』をお腹に入れ、『カテーテル』を介して
バクロフェンというお薬を常に脊髄の周辺に送ることで、
痙縮の症状をやわらげる治療法です。

痙縮をやわらげることで、
日常生活の活動の幅を広げたり、
生活の質を高めることを
目的としています。



まず、効果があるかを確認します

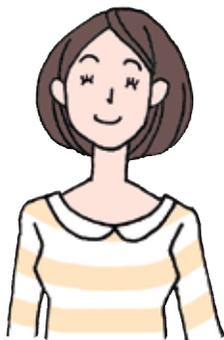
ポンプなどをお腹に入れる前に、まず、バクロフェン髄注療法を行うことで効果があるかどうかを確認します。

効果の確認（スクリーニング）

1 腰からバクロフェンを脊髄周辺に注射します。



2 注射後およそ24時間の間に、症状が改善されるかどうかを確認します。



お薬の量を調節して、再度効果を確かめます。

※1～2日間入院して行います。

効果があった

効果がなかった

他の治療法を検討します。

症状の改善具合、患者さん・ご家族の効果に対する満足度などを総合的に考えて、継続的な治療をご希望される場合は、ポンプをお腹に入れる手術をして効果が持続するようにします。

ポンプをお腹に入れる手術について

治療を継続される場合には、ポンプをお腹に入れる手術を行います。

ポンプをお腹に入れる手術

ポンプをお腹の皮膚の下に入れます。
カテーテルはお腹から背中に入れます。



入院期間は2～4週間です。

効果を確認します。

手術の直後は、効果が強くすぎたり、弱くなりすぎたりすることがありますが、お薬の量を調節することで適切な効果があらわれるようになります。

ポンプをお腹に入れた後について

- 3ヵ月以内に1回の頻度でお薬を補充します。
お腹の上からポンプに注射して、お薬を補充します。
- 約7年に1回はポンプを交換します。
約7年でポンプを動かす電池がきれえます。電池が切れそうな時期になりましたら、手術により新しいポンプと交換します。

※バクロフェン髄注療法は、いつでも中断・中止することができます。
中断・中止した場合は、治療前の状態に戻ります。

